



創立 1993年12月1日
 事務局 〒286-0106 成田市取香 500
 ホテル日航成田
 TEL/FAXL 0476-24-5044
 例会場 ホテル日航成田内
 TEL 0476-32-1144

成田コスモポリタンロータリークラブ週報



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度 国際ロータリー会長のテーマ
 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
 【 会長 シェカール・メーター 】

成田コスモポリタンRCターゲット
 「コロナ禍でも楽しく有意義な
 クラブ運営をめざして」
 【会長：藤崎 康人】

第 1333 回 例会

令和3年12月8日（水）

《 超高齢社会を生き抜くご近所ネットワーク 》

- ◇ 点 鐘 藤崎 康人 会長
- ◇ ロータリーソング 我等の生業
- ◇ 四つのテストの歌
- ◇ お客様紹介 草の根ジェロントロジー(株)
代表取締役 伊藤 幹夫 様



成田ロータリークラブ
 諸岡 市郎左衛門 様



◇ ニコニコ BOX

- ・高木 正尊 会員 スピーチ無し
 《本日12月8日、おしゃかさまのおさとりの日、成道会にちなみニコニコします。》
- ・萩原 康宏 幹事 スピーチ無し
 《靴、みつかりました。政弘さん、すいませんでした。》

◇ 結婚記念日紹介

宮田 明俊 会員 《12月13日》 宇都宮 高明 会員 《12月14日》
 飯島 栄 会員 《12月14日》 大矢 桂介 会員 《12月21日》

◇ 誕生日紹介

澤田浩一 会員	《12月1日》	室岡紀夫 会員	《12月7日》
宮田明俊 会員	《12月13日》	小幡晋彦 会員	《12月15日》
藤崎康人 会員	《12月19日》	小林章 会員	《12月20日》
萩原康宏 会員	《12月21日》	加瀬間明彦 会員	《12月25日》
遠藤忠義 会員	《12月25日》	宮本和也 会員	《12月25日》
宇都宮高明 会員	《12月26日》		



◇ 会長挨拶 藤崎 康人 会長



皆さんこんにちは。先週、ガバナー公式訪問が無事終わりました。皆様のご協力のお陰です。ありがとうございました。本日は、お客様として、卓話講師の伊藤幹夫さまがいらっしゃっています。草の根ジェロントロジー株式会社の代表取締役をされています。このジェロントロジーとは日本語で老年学とか老人学を意味することから、高齢者に関係するお仕事にかかわられているのだと思います。このあと、卓話をよろしく願いいたします。また、成田ロータリークラブから、諸岡市郎左衛門さま、成田コスモポリタンロータリークラブへお越しくさいます。ありがとうございます。ごゆっくりお過ごしください。本日の卓話は、「超高齢社会を生き抜くご近所ネットワーク」という題でのお話です。日本では団塊の世代が75歳を迎えるという2025年問題がたびたび話題となりますが、2025年もうあと4年というところに来てしまっています。いきなり2025年から、高齢化問題が表面化するというわけではなく、その流れはすでに始まっています。これから、高齢者がどんどん増えていくわけですが、そういう社会でいかに生き生きと楽しく生活していくことができるのか、ということのヒントが本日のお話の中にあるのではないかと思います。お話を楽しみにしております。

本日は、本来であれば、クラブ協議会の残りの分を行うのが恒例ですが、コロナによる例会の延期で、卓話をお願いしていた外部講師の方のスケジュールを優先させていただき、クラブ協議会は、少し先に延期させていただきたいと思っております。プログラム委員会によれば、今のところ1月第2例会を考えているとのこと。

さて、世の中は、オミクロン株のことで不安な状況が続いている様ですが、日本は今のところ、厳しい水際対策が行われており、外国人はもとより、帰国を予定されていた日本人関係の方々の中には、スムーズに帰国ができなくなっている人の多くいらっしゃるようです。

日本では、第5波のあと、新型コロナの新規感染者が激減し、それに遅れて、重症患者数も順調に減り、長らく帰国が出来ずにいた日本人の中にはこの年末に帰国を予定した人が多数いらっしゃるのだらうと思っております。当初は、国交省が独自の判断で、日本人を含めすべての入国希望者に対して入国を禁止する措置が発せられました。しかし、WHO から日本の対応は理解不能等とのコメントもあり、さすがに入国者すべて禁止の措置は2日間程度で撤回され、今のところ1日当たり3500人程度の日本人の入国が許可されるようになったようです。世界ではこのオミクロン株の感染がかなりのスピー

ドで拡散しており、すでに 50 以上で感染が確認されています。南アフリカの医師会長のコメントでは、今のところデルタ株流行時と異なり重症化する感染患者がほとんどいないらしいです。これが事実であるなら、デルタ株ほどの脅威にはならない可能性があります。感染力を示す実効再生産指数においては、デルタ株の 2-3 倍との情報もあり、日本での感染拡大も時間の問題と思われる。できるだけ水際対策で日本での感染拡大の時期を先延ばしにし、第 5 波を教訓に、十分な準備ができれば、被害は第 5 波程にはならないと思います。こうなることを祈りたいです。

12 月は、疾病予防と治療月間ですので、この事について少しふれさせていただきます。今月のガバナー月信でも次のようにガバナーが述べています。

以下の内容が、ガバナー月信の中の一部です。

12 月は「疾病予防と治療月間」で、ロータリー重点項目の中でも直接個人の命に関わる項目として定められた月間です。人々が健康な生活を営むことができる社会を構築することを目指して、私達ロータリアンは世界および地域社会で疾病を予防するとともに早期発見し治療して治癒させていく事ができるよう奉仕活動を実践しています。またこの月間を通して、ロータリアン一人ひとりが自身の健康についても考えるきっかけとすることが、他人に対する思いやる心を培い、奉仕の精神を高めることにつながるものと考えます。

国際ロータリーは、1985 年以来、世界からのポリオ根絶をめざし、これを最優先課題として多額の寄付とポリオワクチン接種のサポートをしてきており、現在では、ポリオの野生株の流行地域はアフガニスタンとパキスタンの二つの国だけになっています。

10 月 24 日には世界ポリオデーイベントが 2790 地区では成田山新勝寺を中心に行われたわけですが、先ほども触れましたが、世界は現在ポリオどころではない、といった印象です。このポリオのワクチン接種も新型コロナの影響をうけ、さきほど触れたアフガニスタンやパキスタンといったポリオの流行地域でのワクチン接種が一時滞ったようです。それが原因か定かではありませんが、2020 年のこの 2 か国での新規ポリオ患者の発生が再び増加しました。現在は、約 2 年前からの新型コロナウイルスの蔓延が流行の波はありますが依然として続いています。こんな新型コロナの流行が続いている中でも、地域や他の国や組織の支援により、新型コロナのワクチンを含めて、地域での伝染病を食い止める方法として、国際ロータリーが特集記事を 9 月にまとめています。5 つの方法が提唱されています。

- 1 ワクチンの重要性を伝える
 - 2 公平・平等なワクチン供給を促進
 - 3 事実に基づく正確な情報を広めワクチンの懸念を払拭
 - 4 マスクと適切な衛生習慣を呼びかけ
 - 5 保健機関によるワクチン供給を支援
- の 5 点です。

日本では当たり前のことですが、世界では、このような基本的なことがなかなかスムーズに事が進まない国や地域がたくさんあるだと思います。日本では、今年に入ってワクチン接種が急速に進み、新型コロナが収まっていますが、他の国々では、再び新型コロナ患者が急増しています。このような世界とのつながりがある限り、まだしばらくはコロナとの戦いは続いていくんだろうと思います。とりあえず、今のところは、来週の夜間例会は実施できそうですので、やれるときにやって、少しでも親睦を楽しみたいものです。

これで会長挨拶を終わりにします。

◇ 委員会報告その他

◎ IT 広報・公共イメージ向上統括委員会 高木 正尊 統括委員長



ロータリー財団へ寄付をされた村島義則会員に PHF+5、宇都宮高明会員に PHF+4 のピンパッチが、贈呈されました。



◎ 藤崎 康人 会長

12月1日ガバナー公式訪問例会のお礼状が梶原等ガバナーから届きましたので、ご報告を致します。

◇ 幹事報告 萩原 康宏 幹事



■回 覧： 印西 RC 週報

■例会案内・変更： 無し

■そ の 他： 月信 12 月号の配布

本日例会終了後、12月の役員理事会を行います。

卓話 「超高齢社会を生き抜くご近所ネットワーク」

草の根ジェロントロジー(株) 代表取締役 伊藤 幹夫 様



本日はこのような機会を頂き大変光栄に思っております。

ジェロントロジーというのは老年学、老人学や加齢学などと言われているもので、老いるという事を医学的だけではなく社会的な色々な側面から研究する学問ですが、世界でも超高齢社会のトップランナーの日本でありながら残念ながら未だ知名度が低いです。

欧米、とくにアメリカの大学では7割の大学の教養課程にジェロントロジーが入っており、今後2025年問題をふまえて日本でもこれから知名度が上がってくるのかなと思います。私は町内会長と成田ニュータウン地区の自治会連合会の事務局長として地域に向き合って活動しておりますが、町内なのに縦割りの付き合いでコミュニケーションが取れておらず、色々な世代がいてバラバラでギスギスした感じがしたのでどうにかしたいと思いました。

共通言語が無いこと、先々の事を計画するよりもとりあえずやってみようというはじめての一步がなかなか踏み出せないということに疑問を持っておりました。

あったかいコミュニケーションというものを意識して、試行錯誤し現状の課題に取り組み地域共生社会のイメージをしたり物事を自分事として捉えるということが必要だという事を本に書いております。自主防災に関しては、市区町村独自で整える必要があります。

防災については色々議論されていますが、災害発生前、発生直後、発生して何日か経過した時と状況が違うのに全てが一緒になっています。大地震は全く別で議論しないといけないと思います。

今は特にコロナ禍で近くの小学校に避難できる人数は64名、その地区の人口が2500人以上おり割合は2.5%です。

風水害の時はすぐに安全なところに避難するのが第一ですが、大地震の場合は在宅避難が大前提です。小学校に行ったところで宿泊避難などできません。

私は今危機管理課に対してスクリーニングの基準を提示してくれと言っていますが、市区町村から言わせたら都道府県からも国からもおりにこないものを市区町村独自で作って住民に配布はできないと言われます。

それは間違っていて市区町村独自で基準をしっかり作るべきだと思います。

メディアの報道や内閣府の伝え方がどんな災害も分けずに一緒に考えられたものになっており、現場を混乱させるのだと思います。

風水害と大地震の災害は全く別にして考え、暮らしの身近な現場は自助とご近所の共助で支えるしかないと考えております。

自主防災組織のないところには代替の対策をとることが必要です。

自分達の家のことは自分でやるという自助と、公助（指定避難所）との間に自主防災組織がやらなきゃいけない役割があります。これをわかっていないとどちらかにしわ寄せが行きます。

大地震が起きた場合には市区町村の行政の危機管理課等の仕事は指定避難所のところだけで、そこまでの自分達のことは住民主体の自主防災組織でやってくれというのが行政の考え方です。

住民主体ですので、真面目にやっているところは安心だし真面目にやっておらず形骸化しているところは心配です。

成田ニュータウン地区は形骸化しているところが山ほどあります。自治会の役員が1年ごとにかわり力を注げず他人事のようになり自治会自体が形骸化しているからです。普通に色々なことをバラバラやっても自治会自体を良くしては行けません。

自主防災に関しては住民も前のめりになるので、自主防災組織をどうにかするという事に議論を集中させたら自治会町内会や民生委員、指定避難所の運営、避難行動要支援者制度、生活支援、色々なところに全部関わってくるので自主防災組織に光を当てるべきです。



◇ 点 鐘 藤崎 康人 会長

☆ 本日のお料理 メニュー



◇ 出席報告 *メーキャップは前後2週間です。

	日 付	会員数	免 除	出 席	欠 席	M U	出 席 率	補 正 出 席 率
前々回修正	11月24日	70名	5名	34名	24名	11名		65.22%
本日例会	12月8日	70名	5名	35名	27名	7名	60.87%	

・成田コスモポリタンロータリー・クラブ事務局

〒286-0106 成田市取香 500 ホテル日航成田内 TEL/FAX 0476-24-5044

・例会場 ホテル日航成田内 TEL 0476-32-1144 FAX 0476-32-0022